

東京薬科大学新聞

発行所 東京薬科大学 新聞会
責任者 遊佐めぐみ

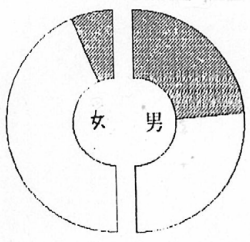
十月号

どうする？東薬生！

～勉強に対する意識の低さ～

夏休みも終わり、後期が始まってからすでに一ヶ月が過ぎようとしている。皆さんも七月に行われた前期試験の結果をアドバイザーから手渡されたことだろう。今年度も前期警告者が数多く出たが、諸君はどうだったのだろうか。13年までの学年別・男女別の前期警告者の割合をグラフにまとめたので左図を参照してもらいたい。

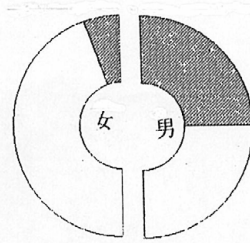
男女別にしてみると、例年の如く男子の前期警告者数が女子のそれよりかなり上回っていることがわかる。このことの原因としては、男子生徒のなかに「女子はできる」というイメージを持っている者が多いためである。男子学生の諸君はこういったイメージを捨て、「女子には負けないぞ」という気持ちで努力してもらいたい。また、女子も男子より前期警告者数が少ないからといって安心せずに前期警告率一桁台に乗せることと、できることならせ口にするのを目標に頑張ってもらいたい。



1年

「前期警告を受けた者がそのことを反省し、勉強するようになれば良いのだが、自分の他に前期警告を受けた者が多いからといって、安心する者が多く、反省をする者はまれであり、一度前期警告を受けた者のうち四年までひきずる者は少なくない。そして四年までひきずっている者はほとんどが国試には受からない。学生としての気構えをしつかり持ってもらいたい」ということだった。

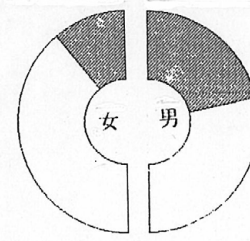
前期警告を受ける原因はやはり勉強の手抜きに他ならない。前期警告を何度も受けた者が国試に受かる割合が低いというのやはり、普段の試験を一度で通すという自発的な姿勢に欠けているからだろう。薬剤師の国家試験の内容も変わるということ、今ままで進んで普段の授業が大切になると、「前期警告を受ける原因は授業に出席していないことである」とのことだ。と、いうことは普段の授業にあまり出席してこない前期警告者が授業で学んできたことを問われる国家試験に合格しないのは、当然といえば当然である。



2年

先日、多摩センターで開催されている「グリコのおまけ展」へ行ってきた。会場には「一粒300メートル」のキャッチフレーズで親しまれている栄養菓子「グリコ」の鮮やかなおまけが数多く展示され、見に来ている人々の目を惹きつけていた。ここには現在のおまけで遊べるコーナーも設けられ、休日ともあって、多くの小さな子供達が楽しそうに遊んでいた。また「グリコ」の昔の自動販売機の複製も設置され、日に数回あるデモンストラーションは子供達を喜ばせていた。

さらに教授は次のようにも語られた。「再履修があるから、ギリギリだを通ったからといって安心感を抱かれては困る。前期警告を受け取ってしまった者は人の命を預かる薬剤師という職業に就く自覚を持ち、授業を真剣に受け取り、引き締めて次回に絶対の警告を受けないようにしてほしい。また、通ったがギリギリだった人も将来役立つだけの知識が身につけていないのは社会に出てからやっていけない。」



3年

グリコのおまけ展

種類、数にして五十二億個以上にも及んでいる。ここにはそのうちの千五百点が、ひとつひとつ透明のプラスチックのケースに入っており、年代順にずらりと並べられていた。大正・昭和初期の紙や金属から、木・ブリキ、セルロイド、そして昭和三十年代から使われ始めたプラスチックにいたる命じてほしい。このことを肝に銘じてほしい。

その材質や絵柄はそれぞれの時代の特徴を色濃く反映していた。また昭和五十年代のおまけの中には、見覚えのあるものもいくつか見られ、幼少の頃が思い出された。グリコのおまけを集めたことのある方だけでなく、一度は見ただけのある物がいくなかにはあるのか。この展示は東京コーポレートアート・ミュージアムで、十一月二十七日まで開催されている。多摩センター駅から歩いて五分ほどの所にあり、入場も無料なので、ふらりと訪れてみてはいかがだろうか。小さなおもちゃに囲まれていると、きつと懐かしい時代が思い出されるだろう。

院試結果

本院における平成七年度大学院修士課程の入試結果は以下の通りである。

- 薬学専攻 志願者数 九〇名 受験者数 八九名 合格者数 五五名 合格率 六一・一%
- 医療薬学専攻 志願者数 三三名 受験者数 二九名

今年度の入試の傾向としては、常に安定した志願者がある医療薬学専攻に対して、二・三数年間一〇〇名以上の志願者がいた薬学専攻の志願者数の減少がある。医療薬学専攻は病院などの臨床での薬学を修めるのに対し、薬学専攻はいわば薬学での研究者としての学問を修めるわけである。この長引く不況のもと、それでも志願者が減少したのは学力云々の前に研究者離れが起きているのではなからうか。アメリカでは、薬剤師の地位向上にとり医療面での充実に力がかれたが、逆に研究者が減少し医療の発展に支障が出ている。我が国では、現在の風潮に押し流されることなく、バランス良く研究者を育成したいものである。とにかく、大学院に進学された方々には、心からお祝いを申し上げますと共に、なお一層のご活躍を期待する。

薬味

先日、北海道東沖地震があった。釧路で震度6、東京でも震度3という大きな地震だった。今回の地震はマグニチュード8・1と、たいへん大きなものだった。これはあの関東大地震をも上回る規模である。もしも今マグニチュード8クラスの地震に襲われたならば、あなたの災害に対する準備は万全だろうか？「備えあれば憂い無し」という諺が示すように平穏無事な今のうちに一通りの災害準備を整えてはいるだろうか？私達学生にとってこの事は常に肝に命じておかなければならない言葉ではないだろうか。つまり、日々コツコツと勉強し、成績に泣かずに進むということである。もう一つ分かります。うさぎとカメがよいだろう。当然皆さんご存知かと思われるが、これは足の速いうさぎが途中で眠っている間に歩みの遅いカメが先にゴールにたどり着いていく。数多くの教訓を与えてくれるお話である。ここではカメが地道に歩き続けてゴールにたどり着いた事から、一つの教訓を得てみようと思う。当然の事だが、亀は自分のペースを守り続けていた。この無理のない行動が亀に勝利を授けたのだ。学生もまた例外ではない。日々の小さな努力、例えば講義をしっかり聴くだけでも、試験前の負担は大いに減るはずである。その結果、成功を手にする事ができるのだ。現在の東薬生にとって「成功」というのは、残念ながら「試験を通す事」のようだ。これを達成するための最低条件は「講義を聴く事」である。講義中の私語など論外である。このことと確実に進む亀の事を忘れてないで頂きたい。(草風)

東薬祭

生命科学部参加で、 新たな時代の幕開けとなるか？

十一月三日(祝)から五日(土)まで、三日間にわたって東薬祭が開催される。今年のテーマは「俺達の時代が始まる! Wake Up to your way」。今年も趣向を凝らしたさまざまなイベントが企画されている。それでは、順を追って紹介してみよう。

文化の日に当たる第一日目には、多くの一般客が訪れると予想され、音楽祭や、これまでの公開実験に代わる体験実習など、いろいろな企画が準備されている。

音楽祭のゲストは六井夕子さんと、本学体育館にて開催される。またオープニングではフェスタモードのライブもある。なおチケットは、前売券が二千三百円、当日券が二千四百円である。これに関して、各学部の東薬祭運営委員または薬室に問い合わせていただきたい。

体験実習は、午前10時から午後三時まで三五一・三五一実習室にて開催される。来校者や学生が薬剤実習・微生物実習・その他の実習の中の簡単な実習をする場で体験できるという企画である。実習のない薬学部的一年生はぜひこの機会に体験実習に参加してもらいたい。

二日目は中夜祭が企画されている。その内容については現在検討中とのことだが、いくつかのオリジナルイベントが予定されている。午後四時三十分よりコヒラにて開催される。

最終日には薬学セミナー・講演会、そして後夜祭と盛りだくさんのイベントが予定されている。

薬学セミナーは、午前10時から11時まで二二二講義室にて開催される。講義の内容は、臨床薬学教室の粕谷孝次教授による「薬の血中濃度と「さし加減」と」、第一衛生学教室の信前利郎教授による「不老長寿の薬はあるか?」生体防御と免疫機能」である。どちらも非常に興味深いテーマで、おすすめの講義である。

講演会は、午後一時より四三一大講義室で行われる。今回の講演者は、元テレビアナウンサーの手田理恵さんと、テーマは「アナウンサーを100倍楽しく見る方法」である。

東薬祭の最後を締めくくる後夜祭には、毎年おなじみの「ミスター・ミス東薬コンテスト」を始めとして「NEW ER GIVE UP」や「バンド人は誰だ?」などのゲームやいろいろな企画があり、非常に楽しませてくれる。

この他にも東薬祭開催期間中を通してのイベントが数多く企画されている。本部企画のSOTやSETは、オリエンテーリングや麻薬についての

イベントを行なう。Welcome受験生では進学相談や体験実習も行なう。また、各クラブ・団体による出し物も楽しみどころである。

十月になり、このような企画・運営を支える東薬祭運営委員会の活動もこれまでに以上で熱が入ってきている。そこで、東薬祭運営委員会の石塚尚規委員長に今年の東薬祭への意気込みを伺った。

「今までは、薬学部のみのお祭りでしたが、今年からは生命科学部が新設され、一緒に楽しめるお祭りになるように頑張りたいと思います。運営委員会全員が一丸となって皆さんに楽しんでもらえるお祭りになります。ぜひ、遊びに来てください。」

「この数年にわたって、学生の東薬祭離れが進んでいるらしい。しかし今年は生命科学部の新設によって、例年以上の盛り上がりが期待される。学生の積極的な参加と協力が東薬祭の成功に結びつくのである。」

日記的な猛筆だった夏がようやく過ぎ、心地よい秋風が吹く頃となった。人にとっては最適な温度のこの季節、読書に没頭するのもいいが運動して汗を流すのも気持ちいいものである。

来る十月十九日(水)の午前九時半より毎年恒例の秋の風物詩、体育祭が行われる。

以前の友人が一所懸命に手紙を書いていたことをふと思い出した。手紙の相手は、その友人がバイトをしていた店の店長で「バイトをやめたい」といった内容のことを書いていた。それを見て私は、回りくどくて馬鹿らしいことをする奴だなあと思った。

そんなことをわざわざ手紙に書く必要などまったくない。自分の口で直接言う方がはるかに簡単ではないか。もし相手の前で話したくないならば電話を使っていたらいいのだ。

それに手紙の上では書いた人間の言いかたが並べ立てられる。相手の言いかたや考えなどが入りこむ余地はない。つまり手紙では相

生命科学部が新設され、一緒に楽しめるお祭りになるように頑張りたいと思います。運営委員会全員が一丸となって皆さんに楽しんでもらえるお祭りになります。ぜひ、遊びに来てください。」

「この数年にわたって、学生の東薬祭離れが進んでいるらしい。しかし今年は生命科学部の新設によって、例年以上の盛り上がりが期待される。学生の積極的な参加と協力が東薬祭の成功に結びつくのである。」

日記的な猛筆だった夏がようやく過ぎ、心地よい秋風が吹く頃となった。人にとっては最適な温度のこの季節、読書に没頭するのもいいが運動して汗を流すのも気持ちいいものである。

来る十月十九日(水)の午前九時半より毎年恒例の秋の風物詩、体育祭が行われる。

以前の友人が一所懸命に手紙を書いていたことをふと思い出した。手紙の相手は、その友人がバイトをしていた店の店長で「バイトをやめたい」といった内容のことを書いていた。それを見て私は、回りくどくて馬鹿らしいことをする奴だなあと思った。

そんなことをわざわざ手紙に書く必要などまったくない。自分の口で直接言う方がはるかに簡単ではないか。もし相手の前で話したくないならば電話を使っていたらいいのだ。

それに手紙の上では書いた人間の言いかたが並べ立てられる。相手の言いかたや考えなどが入りこむ余地はない。つまり手紙では相

当日は午前と午後の部に分かれ、合計十二種目が予定されている。午前の部では「障害物競争」から始まって「棒引き」と「棒倒し」、「主将リレー」そして「スウェーデンリレー予選」が終わり、このころで昼食。午後の部は今年の目玉である「大玉おくり」を皮切りに、「恋人探し」、「騎馬戦」、「研究室対抗リレー」、「スウェーデンリレー決勝」、「チーム対抗」で盛り上がり最後は知恵と勘で勝負の「クイズ」で締めくくる。

この体育祭への抱負を体育部門の部門長である前田拓哉氏に語って頂いた。

「今年恒例となった体育祭を、来る十月十九日に開催いたします。

恒例の種目に、いろいろと工夫を凝らし、新しい種目も加えて、参加される方々に十分楽しんでいただけるように体育祭運営委員一同体育祭に向け準備を進めておりますので、是非とも体育祭の日を楽しみにして下さい。」

なかなか言い出す勇氣は湧いてこないものだ。それが言わずに済むことならば何も問題は無いが、そうはいかないことも多いのである。

今になって思えば、彼が手紙を書いた理由が分かるような気がする。言いたいことがあるのにならぬということも口に出せない。そう思っていたら、手紙で済んでよかった。

う思ってただ黙ってこくしてしまっらいなり、手紙で自分の気持ちを表現したほうがすっきりい。もしも今あなたが、何か言いたいことがあるなら、心にとめて、かみりを持って、心の奥底に閉じ込めてしまわないう、一枚の紙の上につけてみてはどうだろうか。(柴田 幸造)

運動不足の人も体力には自信のある人も満足できない一日になることは間違いないだろう。この機会に日頃のストレスを発散してさわやかな秋を満喫して頂きたい。願わくは十月十九日が体育祭にふさわしい晴天であってほしいものである。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。

「生命現象の解明をめざす生命科学は、日本では明治に創設された学部の種の中で教育が行われてきました。しかし、理、工、農、医、薬という枠組みで、各学部が生命現象の研究にばらばらで取り組んでいるという状態では、生命科学という二十一世紀の学問には対応できません。生命科学部はその背景のもとに創設されたものです。その生命科学部創設記念にこのような講演会を行なったことを大変喜ばしく思います。」

招待客にはテーブルクロスが贈られた。夕焼け小焼けの歌で知られた八王子の美しい夕焼けの中に、生命科学部の象徴ともいべきDNAの二重螺旋をデザインしたものである。

四月に発足して以来、各界から注目を集めていた生命科学部であるが、今回の講演会により内外にその存在を知らしめたことだろう。